

日本での生活

— 言葉の壁はどうやって乗り越えましたか。

スーミンさん 私は、日本の公立の小学校に通っていたので、日本語を基本から学ぶ機会がなく、最初は何も分からなかったです。ただ、クラスの友達の会話に入りたいと思って、日本のテレビ番組やマンガをひたすら見たり読んだりしているうちに、日本語を覚えることができました。子ども向けの番組は簡単な日本語で話すので、外国人の私にも分かりやすかったです。

シルベストレさん 韓国語と日本語は文法が似ているといえますよね。私が使うスペイン語や英語とは全然違うので、日本語を覚えるのは大変でした。日本語学校でも少し学びましたが、日本人の友達をいっぱいつくって、会話の中で何度も失敗しながら覚えていきましたね。

— 日本での暮らしで、大変だったことはありますか。

タックさん ベトナムには地下鉄がなかったので、日本に初めて来た時は、乗り換えの場所や出口が難しくて大阪の地下鉄の駅の中で1時間以上も迷いました。最初は日本語をあまり話せなかったので、身ぶり手ぶりで必死に説明して駅員さんに案内してもらったのを覚えていますね。

シルベストレさん 私は、冬に日本に来たので、雪の量に驚きました。私が住んでいたボリビアやスペインではほとんど雪が降らなかったのに、真っ白な世界の中で生活できるのは心配でした。でも今は雪や寒さにも慣れて、雪かきも上手になりました。

ドゥラーニさん 私は、7月に子どもを産みましたが、病院では出産や育児に関する難しい言葉がたくさん出てきて、説明が分からないことが多かった。出産後の手続きも山ほどあり、大変でした。日本で出産した友達や職場の同僚に分からないことを聞いて、何とか手続きを済ませました。

〈この特集のキーワード〉

「**多文化共生**」
国や文化の異なる人々が、お互いを尊重しながら、共に生きていくという考え方で。

「**やさしい日本語**」
難しい言葉を言い換えたり漢字にふりがなを付けたりした、外国人が読みやすいように横書きの文章を使い、「やさしい日本語」と作りました。

会場:豊平館(中央区中島公園内)



シルベストレさん

出身はボリビアです。
外国語を教えるイベントを行ったりしています。



スーミンさん

出身は韓国です。
札幌で韓国の文化を伝える国際交流員です。

The English version of this special feature is posted on our website. Please give it a read.

この特集の英語版を、ウェブサイトで見ることができます。ぜひ読んでみてください。



この特集は、外国人が読みやすいように横書きの文章を使い、「やさしい日本語」で作りました。

4人に札幌での暮らしのことを聞きました



ドゥラーニさん

出身はスリランカです。
国際プラザの職員です。育児休業中です。



タックさん

出身はベトナムです。
札幌の大学に通う留学生です。

札幌に住む外国人の人数



10年前と比べて、約2倍の人数に増えています。札幌に住む人の約117人に1人が外国人です。

どの国のお客が多いか



お互いを尊重する街へ ～世界都市・札幌で暮らす

札幌では、いろいろな国から来た人が、働いたり学んだりして活躍しています。今回の特集では、札幌に住むみんなが気持ちよく暮らすために大切なことを考えます。

詳細 国際部交流課 ☎011-211-2032

外国人から見た札幌の街

— 札幌に来たきっかけや、街の印象を教えてください。

シルベストレさん 私は、大学生の時に尊敬していた先生が日本人で、そこから日本に興味を持ちました。日本で暮らすならボリビアのように自然が豊かな場所が良いなと思い、北海道を選びました。近くに温泉があったり、食べ物や水がおいしかったり、素晴らしい街だと感じています。

スーミンさん 私は、小学生の頃に親の仕事の都合で日本に3年間住んでいました。夏祭りや花火大会などが心に残っています。旅行で札幌に来た時に、夏の涼しい雰囲気を感じて、札幌で仕事がしたいと思って、国際交流員になりました。特に中島公園が好きで、季節ごとに変わる風景を楽しんでいます。

ドゥラーニさん 私は、スリランカで放送されていた日本のテレビドラマの「おしん」が好きで、日本の景色を見たくて来たのがきっかけです。日本のいろいろな所に住みましたが、札幌が一番好きですね。冬は寒いけれど、温かい人が多いと感じます。

タックさん 私は、親が林業の仕事をしていて、自分は木製品の貿易の仕事がしたいと思っています。林業が盛んな北海道で学びたいと思い、札幌に来ました。

もっと暮らしやすい札幌にするために

—札幌が今より住みやすい街になるために、何が大切だと思いますか。

シルベストレさん 今の札幌の街はとても好きですよ！でも、街中にもっと日本語以外の言葉で案内があると良いかもしれませんね。札幌に住む外国人も、旅行者も増えているので、今のままでは少し足りないかなと思います。私は長く住んでいるから良いけれど、友達に聞いたら、やっぱり言葉の壁は大きいと話していました。

ドゥラーニさん 私もシルベストレさんの言う通り、日本語以外の言葉に対応することは大事だと思います。例えば、私が働いている国際プラザの「さっぽろ外国人相談窓口」には、運転免許を取りたい外国人が相談に来るのですが、授業は全て日本語なので諦めてしまう人もいます。より多くの人や場所が、英語や「やさしい日本語」に対応することができれば、日本語があまり分からない外国人は助かると思います。でも、札幌には英語を話せる人が増えていると感じていて、これから札幌の街はどんどん良くなっていくとは思ってますけどね。

タックさん 私は1つだけ感じることがあって。札幌で住む家を探していた時なんですけど、外国人だからと入居を断られてしまうことが多かったんです。それは少し残念に思いました。皆さんも分かると思うけど…。

ぜんいん おお
全員（大きくうなずく）



ドゥラーニさん 私も同じ経験をしたことがあります。日本語は話せるのに、やっぱり外国人はちょっと難しいですと言われて断られてしまいました。

スーミンさん 外国人だからという先入観や偏見をなくして、個人として見てもらえたらうれしいですね。私は以前、あなたも韓国人だから気が強いんですか、ということをおっしゃったこともありました。そういう「どこの国の人だから」と区別しないで接してもらえたら良いのになと思います。

シルベストレさん そのためにも、日本人と外国人がもっと積極的に交流して、お互いを理解できれば良いですね。



生まれたばかりの子とお出かけるドゥラーニさん



留学生同士の交流を深めるタックさん

れんごうちょうないかい セイフ 連合町内会と「SAFE」 が防災訓練を実施

ぼうさいくねんれん おお こうさい ちく くれんごうちょう
防災訓練を行った幌西地区連合町内会会長の土井さんに聞きました
がいてくじん あんしん く ちいき
外国人も安心して暮らせる地域づくりは大切です。そのためには日頃から顔なじみの関係をつくり、文化や宗教の違いを、お互いが理解することが重要。今回の防災訓練をはじめとした町内会の行事に参加してもらい、地域に住む仲間として共に災害に備えていきたいです。



子ども向けの講演イベントでラテン文化を教えるシルベストレさん



中島公園のボートを楽しむスーミンさん

さいがいがいてくじん しえん 災害外国人支援チーム 「SAFE」

さいぼう おお さいがい お
札幌で大きな災害が起きたときに、札幌国際プラザが立ち上げる「災害多言語支援センター」のスタッフと一緒に災害の情報を翻訳したり避難所を見回ったりするなどの活動を行います。今は17の国の40人のメンバーがいます。



さいがい そな 災害に備える

—2018年9月に北海道でマグニチュード6.7、最大震度7の大きな地震がありました。皆さんは災害への準備をしていますか。

シルベストレさん 私は2018年の地震を経験しました。最初は家にトラックが入ってきたかと思うような衝撃があり、1週間くらいは怖い気持ちで過ごしました。それから、何かあったときにすぐ持って逃げられるように、大事な物や水を入れた袋を作って家に置いていますよ。

ドゥラーニさん 私も当時は札幌にいました。停電した時、どうしたら良いかわからなくて部屋を出たら、同じマンションの人も出てきていて、大丈夫ですかとか、避難所に一緒に行きませんかとか、全く知らない人も話しかけてくれて、人の温かさを感じました。緊急のときに声をかけ合えるつながりは重要だと思いましたね。

タックさん ベトナムは地震があまりなくて、私が日本に来てから大きな地震は起きていないので、何も準備していないです…。ベトナムは大雨や台風による災害はあるのですが、それは予測ができるので、1週間くらい前から準備ができるんです。でも地震は予測ができないので、今のうちから備えておいた方が良いでしょうね。

—経験したことがないと、なかなか自分のこととして考えられないですよ。

スーミンさん 大きな災害を経験したことがない外国人は多いと思うので、どうぞ大丈夫だろうという気持ちになりやすいかもしれません。特に日本に来たばかりの外国人は「いつ災害が起こるか分からない」という、日本人の真剣な気持ちが分からないだろうなって。外国人は日本に家族や知り合いが少ないので、災害が起きたときにとても弱い存在になってしまう心配もあります。

シルベストレさん 私とドゥラーニさんは「SAFE (Sapporo Assistance for Foreigners in Emergencies)」というチームのメンバーとして、災害が起きたときに札幌にいる外国人を助ける活動をしています。これからは新しく札幌に来る外国人も増えてくるだろうし、自分の経験を生かして、日本語をあまり話せない人や観光客の役に立ちたいと思っていますね。

札幌市の取り組み

外国人へのいろいろな支援をしています

札幌市は「多文化共生」のまちづくりを進めています。下に書いている電話やウェブサイトなどで、困ったことや知りたいことを聞いたり調べたりできます。

●札幌国際プラザ

生活の中で困っていることを相談できる「さっぽろ外国人相談窓口」のほか、区役所や学校などにボランティア通訳を行かせたり、日本語を教える教室を時々開いたりしています。

さっぽろ外国人相談窓口
日時 月曜～金曜（祝日、休日、12/29～1/3を除く）9時30分～17時
場所 中央区北1西3MNビル内、
☎011-211-3678、
✉soudan@plaza-sapporo.or.jp

ウェブサイト
札幌国際プラザ
☎011-211-3670



●札幌市コールセンター

札幌市の制度や手続きなどを質問できます。電話は毎日8時から21時までつながります。

対応している言葉 英語、中国語、韓国語 ☎011-222-4894

●さっぽろくらしのガイド

札幌での生活に必要な情報をまとめたウェブサイトです。

対応している言葉 やさしい日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語

ウェブサイト



●札幌メディカルコミュニケーションホットライン

病院に行きたいときに、予約や問い合わせなどの相談ができます。電話は毎日24時間つながります。病院の予約ができるのは平日の9時から17時までです。お金はかかりません。

※電話代はかかりません

対応している言葉 英語、中国語、韓国語、ベトナム語などの21の言葉
☎011-211-2121

ウェブサイト



いろいろな文化を認め合う街へ

日本人も外国人も、みんなが札幌で暮らす大切な仲間です。お互いのことを思いやり、認め合って、みんなにやさしい札幌の街をつくっていきましょう。

多文化共生を進めるための基本方針

札幌市では国や文化の違いに関わらず、皆さんが安心して暮らすための取り組みをまとめた「札幌市多文化共生・国際交流基本方針」を作っています。

今回の基本方針では、日本語学習の支援にも力を入れていきます。今後皆さんの意見を聞いて完成する予定です。

国際部交流課 佐瀬職員



みんなが共に生きていくために

日本人も外国人も、同じ札幌で生活する市民です。「日本人だから」「外国人だから」と区別して壁をつくらなくて、支え合いながら暮らすことが重要です。

ひとりひとりにできること

相手のことを知しましょう

国や文化はもちろんのこと、自分と相手には違うところがたくさんあります。その違いを知ろうとすることが大切です。



「やさしい日本語」で話しかけてみましょう

「やさしい日本語」でゆっくりと話せば、日本語をまだ上手に話せない外国人にも伝わりやすくなります。

国際プラザの金子職員に聞きました
例えばルールを守れていない外国人がいたときに「外国人だから」と諦めてしまうのではなく、まずは話をしてみませんか。言葉の壁があっても、伝えようという気持ちがあれば分り合えることは多いです。

やさしい日本語の言い換えのポイント

ひとつの文章を短くする
(例) 黄色いごみ袋に燃やせるごみを入れて8時30分までに出してください。
→ 燃やせるごみを黄色い袋に入れてください。
ごみは8時30分までに出してください。

難しい言葉を使わない
(例) こちらの書類に記入をお願いします。
→ この紙に書いてください。
回りにくい言い方をしない
(例) ここは書かなくても大丈夫です。
→ ここは書きません。



動画で知ろう

専門学校の学生が動画を作りました

「多文化共生」をテーマに動画を作りました。5本の動画をウェブサイトで見ることができます。

ウェブサイト



「多文化共生」は、まだなじみのない言葉だと思います。札幌に住む外国人が増えていることや、「やさしい日本語」の例を紹介しています。ぜひ見ていただき、理解が広がったらうれしいです。

北海道芸術デザイン専門学校の山本さん

